

## **HIF-PH 阻害薬適正使用に関するお知らせ**

日本腎臓学会から、HIF-PH 阻害薬使用に関する **recommendation** が出ております。  
日本臨床腎移植学会としても、特に移植後貧血での使用に関しては添付文書を理解のうえ十分な注意をしていただきたく、会員のみなさまに注意喚起をいたします。

## **HIF-PH 阻害薬使用について**

網膜病変や、血栓塞栓症における注意に加えて、悪性腫瘍については投与開始前には悪性腫瘍の精査を行うことを推奨します。移植後 10 年以降は慢性移植腎障害と共に、悪性腫瘍発症頻度も多くなります。悪性腫瘍の治療中もしくは治療後で再発リスクが考えられる移植患者においては、HIF-PH 阻害薬の利点と欠点を慎重に考慮し投与決定を行うことを推奨します。すでに悪性転化した細胞の増殖や浸潤能、転移能については、HIF-PH 阻害薬による HIF の活性化が促進的に作用する可能性は否定しきれないからです。

最もリスクの高い腎癌においては HIF-PH 阻害薬投与前と、投与開始後は定期的に、少なくとも年に 1 回程度は、MRI、造影 CT、超音波などの適切な画像検査を用いて評価、経過観察を行うことが必要と考えられます。

出典： 日腎会誌 2020;62(7) : 711~716